

もっと安心農産物 フロッコリー (秋冬どり) 栽培暦 (令和6年度)

JAちばみどり 海上野菜組合産直部

1. 土づくり
- ・エン麦・ギニアグラス・ハブソウを輪作体系として作付けする

・完熟堆肥2トン／10aを施用する
2. 施肥
- ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守

化学肥料窒素成分使用量14.5kg／10a以下

基肥・追肥は①、②のいずれかを選択する。

	肥料名	施肥量
基肥	①ちばみどり有機888 (8-8-8 有機態窒素 1.2)	140kg／10a以下
	②エコレット866(8-6-6 有機態窒素4.1)	180kg／10a以下
	苦土石灰	60kg／10a
追肥	①ちばみどり有機888 (8-8-8 有機態窒素 1.2)	60kg／10a
	②エコレット866(8-6-6 有機態窒素4.1)	90kg／10a

3. 防除
- 化学合成農薬 6成分回数まで(苗購入の場合5成分回数まで)

(スピノエース顆粒水和剤・ゼンターリ顆粒水和剤・Zボルドーは化学合成農薬に含めない)

(オキシリニック酸を含む農薬(スターナ水和剤・ナレート水和剤)の総使用回数は合計2回まで)

(ナレート水和剤は2剤カウントなので注意する)

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈 倍数・処理量	回数	対象病害虫	備考 (耕種的防除の実施)	
7月 下旬～	は種	(ネキリムシ) (ハイマダラノメイガ・ヨトウムシ) (アブラムシ・コナガ) (べと病・軟腐病) (黒腐病)	①ネビジン粉剤 又は ネビリユウ	20～30kg/10a 播種又は定植前 全面土壌混和 20kg/10a 播種又は定植前 作条土壌混和	1回	根こぶ病	害虫の発生量を減らす 為、圃場周辺の除草を する 黒すす病発生時 パレード20フロアブル 2000～4000倍(収穫前 日・3回) 黒腐病発生時 カスミンボルドー	
8月 月上旬～			②ランマン フロアブル	500倍 (定植前日～当日 使用方法 灌注)	1回	根こぶ病	1000倍(収穫7日前・4 回)	
9月 月上旬	定植		③フォース粒剤	4kg/10a (定植時)	1回	ネキリムシ 類	バリダシン液剤5 800倍(収穫前日・3回)	
中旬			④ハチハチ乳剤	1000～2000倍 (収穫7日前)	2回	アブラムシ類 アオムシ コナガ	べと病発生時 アミスター20フロアブル 2000倍(収穫3日前・3 回)	
下旬			⑤コルト顆粒 水和剤	4000倍 (収穫前日)	3回	アブラムシ 類	コナガ・ヨトウムシ多発時 アフーム乳剤 1000～2000倍 (収穫3日前・3回)	
10月 月上旬 中旬 下旬	追肥		⑥コテツ フロアブル	2000倍 (収穫3日前)	2回	アオムシ コナガ ヨトウムシ	ディアナSC 2500～5000倍 (収穫前日・2回) グレーシア乳剤 2000～3000倍 (収穫7日前・2回) ベネビアOD 2000～4000倍 (収穫前日・3回)	
			⑦プレバソン フロアブル5	2000倍 (収穫前日)	3回	アオムシ コナガ	コナガ・ハスモンヨトウ多発時 プレオフロアブル 1000倍(収穫7日前・2 回)	
			⑧スターナ 水和剤	2000倍 (収穫14日前)	2回	軟腐病		
			⑨⑩ナレート水和 剤*2剤カウント	1000倍 (収穫14日前)				
11月 月上旬 中旬 下旬	収穫		⑪フェニックス 顆粒水和剤	2000～ 4000倍 (収穫前日)	2回	ハイマダラノメイガ ヨトウムシ		
			★ 化学合成農薬に含めない農薬					
			スピノエース 顆粒水和剤	5000倍 (収穫3日前迄)	3回	アオムシ コナガ		
			ゼンターリ 顆粒水和剤	1000～2000倍 (収穫前日迄)	—			
		中旬	Zボルドー	500倍	—	花蕾腐敗病		
下旬								

☆みんなで守ろう生産基準